

# 研修開催要領等（令和2年度）

各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員次世代リーダー及び事務職員等に対する研修（学校経営研修）

1. 教職員等中央研修	
校長研修 .....	1
副校長・教頭等研修 .....	3
中堅教員研修 .....	5
次世代リーダー育成研修 .....	7
事務職員研修 .....	9

各学校や地域における研修のマネジメントを推進する指導者の養成等を目的とする研修（指導者養成研修）

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修.....	11
2. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修.....	13
3. 生徒指導指導者養成研修 .....	15
4. 教育相談指導者養成研修 .....	17
5. いじめの問題に関する指導者養成研修.....	19
6. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修.....	21
7. 体力向上マネジメント指導者養成研修 .....	23
8. 健康教育指導者養成研修 .....	25
9. 食育指導者養成研修 .....	27
10. 学校安全指導者養成研修 .....	29
11. 道徳教育指導者養成研修.....	31
12. 学校教育の情報化指導者養成研修 .....	33
13. 人権教育指導者養成研修 .....	35
14. 幼児教育指導者養成研修 .....	37

地方公共団体からの委託等により共益的事業として実施する研修（委託研修）

1. 産業・理科教育教員派遣研修 .....	39
------------------------	----

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 校長研修 (NITSオンライン研修)							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	10年後の学校のあるべき姿を設定し、自校および地域でその実現に向けた取り組みを推進する力量を高め、各地域の中核となる校長を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校長等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
受講期間	令和2年9月7日 (月) ~ 令和2年12月18日 (金)				1パッケージ5日間×12週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	170	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター (茨城県つくば市)							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	141	28	0	0	0	1	170
割合 (%)	83.4%	16.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	
	169	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

- ・学校改善プランを策定し、実践していく道筋を明らかにすることができた。
- ・学校経営を進めるにあたり、何からどのように取り組めばよいのか、参考となる視点をたくさんありました。
- ・全体的な日程が適切であったと感じます。講座後のリフレクションも必要であり、自己を振り返ることもできた。
- ・自校の課題ばかりに目を向けていた自分があったことに気づかされ、学校の改善(成長)が地域の成長・活性化の一助になるよう俯瞰的な視点で学校経営にあたっていきたい。
- ・専門性の高い講師の方の話聞くことができ、自校や地域での取組と重ねながら自身の考えを深めることができた。
- ・教育改革等について、新たに見識を深めることができ、自分の教育実践を振り返るきっかけとなった。
- ・優れた実践をされている学校経営、授業実践、学級経営について、実践をしている方がたくさん登場すると、より貴機構のサイトを活用するのではないかと考えます。
- ・各県ごとに職階ごとに受講者を指定された会場に集めて行くと、密の回避と他の受講者との意見交換が両立するのではないかと思う。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行った。
- ・マネジメントについて先を見通す「時間軸」と、地域・社会の「空間軸」でおさえられるように研修内容の配列について改善を図った。
- ・教職大学院の教員をファシリテーターとした研修内容について継続を図る。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、非集合型オンライン研修により実施した。

### 次年度に向けて

- ・校長研修と事務職員研修を校種別に同時期に実施し、一部の内容を合同で行う。
- ・マネジメントについて先を見通す「時間軸」と、地域・社会の「空間軸」でおさえられるような研修内容の配列にする。
- ・昨年度オンライン研修への移行により削除した「学校マネジメントプランの設計」「タイム・マネジメント」の講義・演習を入れる。
- ・集合型研修と、非集合型研修のベストミックスを図る。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和2年度 教職員等中央研修(NITSオンライン研修)校長研修 日程表

※講義・演習(90分)・リフレクション(60分)で構成されています。  
適宜、休憩を取りながら受講願います。

	9:00					16:00	
月	開講にあたって ・ オリエンテーション (30分)	(第1講) 講義・演習  学校組織マネジメント(1) 現代教育改革の全体像と学校経営改革  国土館大学 教授 北神 正行	リフレクション	屋休憩	(第2講) 講義・演習  学校組織マネジメント(2) 学校の組織力向上と新たなリーダーシップ  国土館大学 教授 北神 正行	リフレクション	
火		(第3講) 講義・演習  カリキュラム・マネジメント 教科横断的な授業の実現をはかる学校経営戦略  千葉大学 特任教授 天笠 茂	リフレクション	屋休憩	(第4講) 講義・演習  コミュニティ・マネジメント 地域とともにある学校を実現する連携・協働  教職員支援機構 つくば中央研修センター センター長 清國 祐二	リフレクション	
水		(第5講) 講義・演習  スタッフ・マネジメント(1) 管理職に求められる組織対応  早稲田大学 教授 河村 茂雄	リフレクション	屋休憩	(第6講) 講義・演習  スタッフ・マネジメント(2) 管理職に求められる組織対応  早稲田大学 教授 河村 茂雄	リフレクション	
木		(第7講) 講義・演習  リスク・マネジメント 学校における危機管理とケーススタディ  鳴門教育大学大学院 特命教授 阪根 健二	リフレクション	屋休憩	(第8講) 講義・演習  リスク・マネジメント 災害から教員と児童生徒を守る視点  鳴門教育大学大学院 特命教授 阪根 健二	リフレクション	
金		(第9講) 演習  研修成果の活用に向けて ～学校改善プランの策定～  教職員支援機構		屋休憩	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局長 浅田 和伸 (30分)	(第10講) 課題レポートの作成について  スクール・マネジメントと校長のリーダーシップ  教職員支援機構	閉講にあ たって ・ 事務連絡 (20分)

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 副校長・教頭等研修 (NITSオンライン研修)				
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室				
研 修 目 的	ステークホルダーが求めるものを踏まえ、自校をマネジメントできる力量を習得し、各地域の中核となる副校長・教頭等を育成する。				
受 講 対 象	幼稚園の園長・副園長等、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の副校長・教頭、教育委員会等の指導主事等で、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 主幹教諭については、各教育委員会の判断により「副校長・教頭等研修」に推薦することができる。				
受 講 期 間	令和2年9月7日 (月)	～	令和2年12月18日 (金)	1パッケージ5日間×12週	
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	602 人
				参加率	—
開 催 場 所 (配 信 元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター (茨城県つくば市)				

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	534	66	0	0	0	2	602
割合 (%)	89.0%	11.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	
	600	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の方々の専門性の高い講義を拝聴して、教育に求められている機能や管理職としての役割、自分のスキルについて学び直すよい機会となった。</li> <li>・どの講座も、内容が精選されており、また講師の先生方の説明もわかりやすく、とても自分自身にとって有意義で勉強になった。</li> <li>・資料が豊富である。視聴時間中には活用しきれなかったが、学びなおしや今後の実践の際に活用したい。また、文部科学省からの資料も有効活用したい。</li> <li>・講義内容によって、情報量(資料含め)がかなり多いものがあった。また、リフレクションで取り組む内容も多い講座もあった。</li> <li>・「マネジメント」という柱に沿った一貫性のある内容構成のため、それぞれの講義で、何を、どう学ぶか、どのように連関するかを考えやすいというメリットがあった。</li> <li>・講義内容によっては、もう少し時間を掛けて受講したい講座もあった(学校組織マネジメント、学校ビジョンの構築)。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全てオンラインでの開催となった。</li> <li>・当初、働き方改革に対応し、タイム・マネジメントやスタッフ・マネジメント等の講座を設ける予定であったが、オンラインで5日間の開催となり、スタッフ・マネジメントのみ講座を設けた。</li> <li>・学校運営演習とスクール・コンプライアンスの実施のあり方について見直して実施予定であったが、研修期間短縮に伴い、講座自体が実施できなかった。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育政策の諸動向について、各課より喫緊の情報を動画に収録し、受講生がそれを視聴して考えをまとめることを事前課題として課し、研修成果の向上を目指す。</li> <li>・ユニットミーティングにおいてテーマを設定し、各地域での課題や改善方法等について協議する。</li> <li>・管理職は業務改善の中心となって取り組まなければならないことから、タイム・マネジメントの講座を設定する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和2年度 教職員等中央研修(NITSオンライン研修)副校長・教頭等研修 日程表

※講義・演習(90分)・リフレクション(60分)で構成されています。  
適宜、休憩を取りながら受講願います。

	9:00					16:00
月	開講にあたって ・ オリエンテーション (30分)	(第1講) 講義・演習  <b>学校組織マネジメント</b> Withコロナにおける新しい学校経営様式  岐阜聖徳学園大学 教授 篠原 清昭	リフレクション	昼休憩	(第2講) 講義・演習  <b>カリキュラム・マネジメント</b> 子どもファーストの教育課程編成  奈良教育大学 教授 赤沢 早人	リフレクション
火		(第3講) 講義・演習  <b>コミュニティ・マネジメント</b> 地域とともにある学校を実現する連携・協働  教職員支援機構 つくば中央研修センター センター長 清國 祐二	リフレクション	昼休憩	(第4講) 講義・演習  <b>スタッフ・マネジメント</b> コーチングの活用で元気な学校をつくる  別府大学 教授 佐藤 敬子	リフレクション
水		(第5講) 講義・演習  <b>リスク・マネジメント(1)</b> リスク・マネジメントの目的と必要性  塩竈市学びの支援センター「コラソン」 所長兼スーパーバイザー 身崎 裕司	リフレクション	昼休憩	(第6講) 講義・演習  <b>リスク・マネジメント(2)</b> 東日本大震災から考える  塩竈市学びの支援センター「コラソン」 所長兼スーパーバイザー 身崎 裕司	リフレクション
木		(第7講) 講義・演習  <b>メンタルヘルス・マネジメント</b> 管理職に求められる個別対応  早稲田大学 教授 河村 茂雄	リフレクション	昼休憩	(第8講) 講義・演習  <b>学校ビジョンの構築</b> 学校の改善・改革を実現する戦略と戦術  兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一	リフレクション
金		(第9講) 演習  <b>研修成果の活用に向けて</b> ～学校改善プランの策定～  教職員支援機構		休 憩	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局長 浅田 和伸 (30分)	(第10講) 課題レポートの作成について  <b>スクール・マネジメントと管理職の役割</b>  教職員支援機構  閉講にあ たって ・ 事務連絡 (20分)

## I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 中堅教員研修 (NITSオンライン研修)							
担当課	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	管理職の視点を持ち、マネジメントが浸透した学校とするために必要な力量を習得し、各地域の中核となる中堅教員を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10～20年の者（大臣指針で示された「第二ステージ（充実・円熟期）」の成長段階を想定）							
受講期間	令和2年9月7日（月）～ 令和2年12月18日（金）				1パッケージ5日間×12週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	768	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	649	114	3	1	1	0	768
割合 (%)	84.6%	14.9%	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	
	763	99.5%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメントを中心とした研修を通して、学校全体で取り組むべき課題やその方法・姿勢を、強く感じながら学ぶことができた。</li> <li>・講義の質が大変高く、それぞれの講義が有機的に配列されていた。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響でオンライン研修となったが、研修内容がとても精選されており、受講者に対するアナウンス等も適切で、不自由なく研修を終えることができた。</li> <li>・どの講義も理論だけでなく、事例や今後活かす視点を与えてくれたところがとても良かった。</li> <li>・パワーポイントの資料を用意していただいた講義はわかりやすく感じた。できれば、全講義で大きな文字でキーワードや図示をしていただくと受講しやすくなると思う。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンライン研修へと移行し、実施方法・内容等の変更が迫られたが、ミドルリーダーの視点からスクールリーダーの視点へ移行し、自校をよりよい学校にリードするための研修体系は維持して実施した。</li> <li>・令和元年度に構築された「スクール・マネジメント」「学校改善」「実践開発」という3領域に沿って、講座を有機的に配列した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師へのリアルタイムでの質疑応答や他受講者との交流を設けてほしいとの要望を踏まえ、研修を実施する必要がある。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和2年度 教職員等中央研修(NITSオンライン研修)中堅教員研修 日程表

※講義・演習(90分)・リフレクション(60分)で構成されています。  
適宜、休憩を取りながら受講願います。

	9:00					16:00	
月	開講にあたって ・ オリエンテーション (30分)	(第1講) 講義・演習  学校組織マネジメント ～その基本的考え方～  広島大学 教授 曾余田 浩史	リフレクション	昼休憩	(第2講) 講義・演習  カリキュラム・マネジメント ～カリキュラムリーダーシップの視点から～  横浜国立大学教職大学院 教授 倉本 哲男	リフレクション	
火		(第3講) 講義・演習  コミュニティ・マネジメント ～社会に開かれた教育課程を実現するカリキュラム編成～  岡山大学 教授 熊谷 慎之輔	リフレクション	昼休憩	(第4講) 講義・演習  スタッフ・マネジメント 組織マネジメントとコーチング等の諸理論  東京聖栄大学 教授 有村 久春	リフレクション	
水		(第5講) 講義・演習  メンタルヘルス・マネジメント 教職員の精神衛生と支え合える学校づくり  明治大学 教授 諸富 祥彦	リフレクション	昼休憩	(第6講) 講義・演習  新しい学びの推進 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて  國學院大学 教授 田村 学	リフレクション	
木		(第7講) 講義・演習  インクルーシブ教育の推進 ～通常の学級における特別支援教育の実践～  新潟大学 教授 長澤 正樹	リフレクション	昼休憩	(第8講) 講義・演習  学校ビジョンの構築 ～SWOT分析による展開～  茨城大学 教授 加藤 崇英	リフレクション	
金		(第9講) 演習  研修成果の活用に向けて ～学校改善プランの策定～  教職員支援機構		昼休憩	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局長 浅田 和伸 (30分)	(第10講) 課題レポートの作成について  学校組織におけるミドルリーダーの役割  教職員支援機構	閉講にあ たって ・ 事務連絡 (20分)

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 次世代リーダー育成研修 (NITSオンライン研修)							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	教員ステージからスクールリーダーステージへ移行するために必要な力量を習得し、各地域の中核となる次世代リーダーを育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、各地域の中核としての活躍が期待される者のうち、教職経験が概ね10年前後の者 (30代の若手教員を想定)							
受 講 期 間	令和2年9月7日 (月) ~ 令和2年12月18日 (金)				1パッケージ5日間×12週			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	195	人	参加率	—
開 催 場 所 ( 配 信 元 )	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター (茨城県つくば市)							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	152	37	1	0	0	5	195
割合 (%)	80.0%	19.5%	0.5%	0.0%	0.0%	2.6%	
	189	99.5%					

2. 研修に関する主な意見

- ・次世代リーダーとしての自覚と責任、意欲が高まった。また、どのようなリーダーとして役割があるのか、どのような資質が求められているのかを確認することができた。
- ・本講座を受ける中で、学校全体・地域も含めて考える重要性和自分の立ち位置を意識できるようになった。
- ・リフレクションの時間の「1人で考える」「自分に向き合う」という時間も大切だと実感することができた。

## III 研修内容・方法の見直し等

### 前年度を踏まえ

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、実施方法・内容等を再検討し、オンラインで実施した。

### 次年度に向けて

- ・集合研修またはオンラインの同時双方向通信による研修とし、受講者同士の交流の機会を設ける。

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## 令和2年度 教職員等中央研修(NITSオンライン研修)次世代リーダー育成研修 日程表

※講義・演習(90分)・リフレクション(60分)で構成されています。  
適宜、休憩を取りながら受講願います。

	9:00					16:00	
月	開講にあたって ・ オリエンテーション (30分)	(第1講) 講義・演習  学校組織マネジメント 学校を元気にするために  群馬大学 准教授 高橋 望	リフレクション	昼休憩	(第2講) 講義・演習  カリキュラム・マネジメント 「質の向上」をどう図るか  早稲田大学教育総合科学学術院 教授 根津 朋実	リフレクション	
火		(第3講) 講義・演習  コミュニティ・マネジメント ～社会に開かれた教育課程を実現するカリキュラム編成～  岡山大学 教授 熊谷 慎之輔	リフレクション	昼休憩	(第4講) 講義・演習  リスク・マネジメント 学校の危機をいかに防ぐか  高崎市教育委員会 教育長 飯野 眞幸	リフレクション	
水		(第5講) 講義・演習  新しい学びの推進 「学習する集団」を育む授業づくりのポイント  岡山大学 教授 高旗 浩志	リフレクション	昼休憩	(第6講) 講義・演習  生徒指導の推進 児童生徒理解と協働に基づく生徒指導の進め方  関西外国語大学 教授 新井 肇	リフレクション	
木		(第7講) 講義・演習  インクルーシブ教育の推進 交流及び共同学習の意義と展開  独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 横尾 俊	リフレクション	昼休憩	(第8講) 講義・演習  学校ビジョンの構築 学校ビジョンの意義と次世代リーダーの役割  茨城大学 准教授 照屋 翔大	リフレクション	
金		(第9講) 演習  研修成果の活用に向けて ～学校改善プランの策定～  教職員支援機構		昼休憩	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局長 浅田 和伸 (30分)	(第10講) 課題レポートの作成について  学校組織における次世代リーダーの役割  教職員支援機構	閉講にあ たって ・ 事務連絡 (20分)

## I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 事務職員研修 (NITSオンライン研修)							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	校長とともに、学校の改善に即時に対応するため必要な力量を習得し、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の事務長、学校事務の共同実施におけるリーダー的な役割を担う担当者またはそれに準じる者であって、今後、学校経営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者							
受 講 期 間	令和2年9月7日 (月) ~ 令和2年12月18日 (金)			1パッケージ5日間×12週				
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	383	人	参加率	—
開 催 場 所 ( 配 信 元 )	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター (茨城県つくば市)							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	254	125	1	0	0	3	383
割合 (%)	66.8%	32.9%	0.3%	0.0%	0.0%	0.8%	
	379	99.7%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に行かなくても普段は受けることのできない全国の専門的な講師の研修を受けることができ、改めて知識を基に今までの取り組み等を考え直すきっかけになり、とても勉強になりました。</li> <li>・複数の講師が繰り返し同じキーワードを挙げられたため、今目指すべき教育理念や職務の在り方を実感することができた。</li> <li>・言葉だけ聞いてもわからなかった各マネジメントが、ひとつひとつの講義を受けることでだんだんと自分の中でひとつの形になっていく感じがした。</li> <li>・動画視聴だけでなく相互方向で質疑応答ができるような機会があればより深い学びが得られるのではと思います。</li> <li>・学校財務マネジメントとスタッフマネジメントが事務職員に特化した内容となっていて大変有意義であった。できればすべての講義が学校事務職員向けであるとなおよかったと思う。</li> <li>・今回唯一残念なことは全国の仲間と情報交換が顔をみてできなかったことである。短時間でもいいのでzoom研修等で意見交流などができたらもっとよかったと思う。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長研修と一部同一の講座を実施した。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの講座を新設した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、非集合型オンライン研修により実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校及び中学校を対象とした校長研修及び事務職員研修は引き続き同時期に開催し、一部の内容を合同で行う。</li> <li>・年度3回開催を年度4回開催とする。</li> <li>・学校教育のICT化に伴い、校務情報化に関連する講義を設け、理解を深める。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和2年度 教職員等中央研修(NITSオンライン研修)事務職員研修 日程表

※講義・演習(90分)・リフレクション(60分)で構成されています。  
適宜、休憩を取りながら受講願います。

	9:00					16:00	
月	開講にあたって ・ オリエンテーション (30分)	(第1講) 講義・演習  学校組織マネジメント(1) 現代教育改革の全体像と学校経営改革  国土館大学 教授 北神 正行	リフレクション	昼休憩	(第2講) 講義・演習  学校組織マネジメント(2) 学校の組織力向上と新たなリーダーシップ  国土館大学 教授 北神 正行	リフレクション	
火		(第3講) 講義・演習  カリキュラム・マネジメント カリキュラム・マネジメントの推進に果たす学校事務職員の役割  千葉大学 特任教授 天笠 茂	リフレクション	昼休憩	(第4講) 講義・演習  コミュニティ・マネジメント 地域とともにある学校を実現する連携・協働  教職員支援機構 つくば中央研修センター センター長 清國 祐二	リフレクション	
水		(第5講) 講義・演習  財務マネジメント 学校マネジメント環境の変化をとらえた学校事務への挑戦  日本大学 教授 末富 芳	リフレクション	昼休憩	(第6講) 講義・演習  リスク・マネジメント 学校における危機管理  鳴門教育大学大学院 特命教授 阪根 健二	リフレクション	
木		(第7講) 講義・演習  スタッフ・マネジメント(1) 学校像・リーダーシップモデルの転換と学校事務職員  国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 藤原 文雄	リフレクション	昼休憩	(第8講) 講義・演習  スタッフ・マネジメント(2) 学校事務職員の資質・能力モデルと成長支援  国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 藤原 文雄	リフレクション	
金		(第9講) 演習  研修成果の活用に向けて ～学校改善プランの策定～  教職員支援機構		昼休憩	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局長 浅田 和伸 (30分)	(第10講) 課題レポートの作成について  スクール・マネジメントと事務職員の役割  教職員支援機構	閉講にあ たって ・ 事務連絡 (20分)

## I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、地域との連携、学校の資源等が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内外の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮する必要がある。本研修では、1) 学校ビジョンの構築、学校教育目標の具現化をマネジメントする専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭、養護教諭等であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受 講 期 間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	561	人	参加率	—
開 催 場 所 (配 信 元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	502	55	0	0	0	4	561
割合 (%)	90.1%	9.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	
	557						
	100.0%						

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムに沿って講義の内容が効果的に編成されていたこと。講師の先生方全員でそれぞれの内容を共有し、一本の柱が貫かれていると感じました。</li> <li>・学校組織マネジメントという自分にはまだ早いと思っていたが、講師の方々の専門性の高い話や一緒に参加した受講者の方々とのリフレクションを通じて、身近な問題として捉えることができ、大変有意義な研修となった。</li> <li>・専門性の高い講義内容だった。現在の社会状況を適切に把握することの大切さやそれに伴う学校の教育改革、法的改革、そして自分を高める意識など学ぶことは多かった。</li> <li>・これまでの教育実践に新たな視点を与えていただきました。学校組織は、他の一般企業などと異なる組織であることや個人での業務に陥りやすいことなど、これまであまり考えてこなかった視点を与えてもらいました。学校に関わる全ての人のために、今回研修で学んだことを生かしていきたいと考えています。</li> <li>・令和4年度から新たな学習指導要領が実施されるこの時期に、学校組織マネジメントの方法を学ぶことができた本研修は大変有意義であった。</li> <li>・専門性の高い講義内容だった。現在の社会状況を適切に把握することの大切さやそれに伴う学校の教育改革、法的改革、そして自分を高める意識など学ぶことは多かった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、非集合型オンライン研修をオンデマンド型により実施したことで、対話やグループでの演習を実施することができなかった。しかし、そのような状況でも、「組織」「教育課程」「人」という視点から、研修内容に一貫性を持たせて組み立てたことで、受講者からの評価も高かった。</li> <li>・「ミーティングの時間や初日午後の演習等について、目的を明確に伝えよりよい演習となるよう改善する」という前年度の改善点を受け、個人で行うリフレクションの時間を充実させるため、全講義のリフレクションの視点及び方法を一覧にした「リフレクション実施ガイド」を配布し、リフレクションの時間の目的を明確にした。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修受講者の満足度やニーズの高さを踏まえ、オンデマンド型オンライン研修単独の研修体系から、受講者と講師、受講者同士の双方向性を確保したリアルタイム型オンライン研修と、オンデマンド型オンライン研修を両方実施する。それにより、受講者の状況に応じた多様な受講機会を設ける。</li> <li>・学校改善の流れを自分ごととして体験して理解を深めるため、リアルタイム型オンライン研修の中で、戦略マップづくりの演習を実施する。</li> <li>・対話や協議の場を設定してほしいという要望を受け、オンデマンド型オンライン研修では、研修終了後に、事後に研修する場を設け、情報交換や対話の機会を確保することを検討している。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和2年度学校組織マネジメント指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00								16:00	
(火)	開講にあたって	(第1講) 講義・演習		リフレクション	昼 休 憩	(第2講) 講義・演習		リフレクション	
		文部科学省講話	学校教育の質保証としての学校経営改革の動向			やる気を引き出すヒューマンリソース・マネジメント			
		文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	国土館大学 教授 北神正行			早稲田大学 教授 河村茂雄			
(水)	(第3講) 講義・演習		リフレクション	昼 休 憩	(第4講) 講義・演習		リフレクション		
	特色ある学校づくりのためのカリキュラム・マネジメント				学校組織マネジメントの実践に向けて ～学校の戦略マップを作る～				
		上越教育大学 教授 安藤知子				兵庫教育大学 教授 浅野良一			
(木)	(第5講) 講義・演習		リフレクション	昼 休 憩	(第6講) 講義・演習		閉講にあたって		
	新たな学校づくりとスクールリーダーの役割				研修成果の活用				
		国土館大学 教授 北神正行				教職員支援機構			

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	学校は、地域や学校の実態等に即し、学校の資源、特色を生かした適切な教育課程を編成し、実施する必要がある。新学習指導要領においても、「カリキュラム・マネジメント」の重要性が特に示されている。本研修では、新学習指導要領に基づいて、学校において、校長のリーダーシップの下、組織的、計画的に「カリキュラム・マネジメント」を展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等を習得する。そして、1) 各学校における教育課程の編成・実施の改善に関する専門的知見を活用して組織的な取組を推進する力、2) 学校や地域の教職員の「カリキュラム・マネジメント」に関する専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受 講 期 間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	605	人	参加率	—
開 催 場 所 ( 配 信 元 )	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	511	87	0	0	0	7	605
割合 (%)	85.5%	14.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	
	598						
	100.0%						

2. 研修に関する主な意見

・研修資料がわかりやすかったです。組織的にカリキュラム・マネジメントを推進していくための具体的な手法やポイントをつかむことができました。カリキュラム・マネジメントと組織マネジメントが密接にかかわっており、カリキュラム・マネジメントを多面的に考えると、新たな視点がわかり、新たなアプローチを模索できたと思います。

・開講前に、3日間のそれぞれの研修の大まかな見通し（1日目、第1講は「カリキュラムマネジメントとは何か?」、第2項は「なぜカリキュラムマネジメントが必要か」というテーマで、といったこと）が明文化されていた為、自分なりにそれぞれのテーマを意識しながら受講することができた。

・資料はわかりやすかったが、事例等の紹介がもっと欲しい。そこにコンピテンシーが詰まっていると思うので、解説付きの事例を大量に紹介されることが望ましい。解説付きでなくとも、ある程度詳しく書いてあれば、そこからコンピテンシーを見出せる。他の受講者と交流できれば、それができるが、オンラインでは講師等から紹介してもらおうか、資料としていただければ手に入れようがない。

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染状の感染拡大防止の観点から、非集合型オンライン研修を実施した。</li> <li>・リフレクションの時間について、全講義のリフレクションの視点及び方法を一覧にした「リフレクション実施ガイド」を配布し、受講者が受講しやすい環境の構築に努めた</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者と講師、受講者同士の双方向を確保したリアルタイム型オンライン研修へ移行する。</li> <li>・受講者ニーズの高さを踏まえ、リアルタイム型オンライン研修に加え、オンデマンド型オンライン研修も実施し、多様な受講機会を設ける。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00									16:00	
(火)	開講にあたって	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	(第1講) 講義・演習	リフレクション	昼 休 憩	(第2講) 講義・演習	リフレクション			
			「生きる力」の理念の具体化と カリキュラム・マネジメント —学習指導要領総則の規定を中心に—  文部科学省 学校教育官 石田有記			「カリキュラム・マネジメント」の新たな展開  千葉大学 特任教授 天笠茂				
(水)			(第3講) 講義・演習	リフレクション	昼 休 憩	(第4講) 講義・演習	リフレクション			
	学校における評価システムの確立によるカリキュラム改善  大阪教育大学 教授 田村知子		教育課程の編成・実施のための教職員の組織化  上越教育大学 教授 安藤知子							
(木)			(第5講) 講義・演習	リフレクション	昼 休 憩	(第6講) 講義・演習	閉講にあたって			
	カリキュラム・マネジメントと組織化  千葉大学 特任教授 天笠茂		研修成果の活用  教職員支援機構							

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研修名	生徒指導指導者養成研修 (NITSオンライン研修)							
担当講師	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つである。このことから、学校では、生徒指導の実践に際し教職員間の共通理解を図り、組織的・体系的生徒指導の取組をしている。しかし、社会の変化が著しい現代において、いじめ、暴力行為、自殺、不登校などは依然として学校教育推進上の大きな課題となっている。そのため、学校や教育委員会等による、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期解決の推進が一層求められている。本研修では習得した内容を踏まえ、各地域における研修講師等として、1) 生徒指導に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮できる指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	301	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター (茨城県つくば市)							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	257	42	0	0	0	2	301
割合 (%)	86.0%	14.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	
	299	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な実践事例や指導方法を理論とともに講義していただき、勤務校で困難を抱える児童生徒にすぐにも役立つ内容だと感じた。</li> <li>・選択制の講座もあったが、私は全て受講することができた。集合型では選んだものしか受講できないので、よかった。</li> <li>・生徒指導主任として役割を果たす上でのニーズに沿ったテーマであり、ニーズ以上の収穫もたくさん得ることができた。</li> <li>・事例研究の講座で、実際に事例研究を行っている場面を視聴することができたのは非常に良かった。講義だけではイメージしにくいものが、映像があることによって理解が深まった。</li> <li>・研修の流れが、現状と課題→生徒指導の基礎編→応用編→活用と意図的にプログラムされていたことで、非常にスムーズに学習することができた。</li> <li>・研修の構成が、受講者にどのような資質・能力が必要か示してくれていた点と、講師の質が高く、自分の考えを見直すことができた点が良かった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内に閉じた指導・支援ではなく、校外との連携の視点も重視した研修内容とするため、チーム学校に関わる研修内容を拡充し、オンラインへの移行に当たって内容を精選する際にも重視して構成した。</li> <li>・「生徒指導指導者養成研修」と「教育相談指導者養成研修」の一部の内容を共通講座として実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、集合型研修を取りやめ、オンデマンド型の研修を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド型からリアルタイム配信型にオンライン研修の形態を変更する。</li> <li>・生徒指導に関する喫緊の教育課題については、最新の動向を踏まえて内容を検討する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



## 令和2年度生徒指導指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00		16:00			
(火)	開講にあたって	(第1講) 講義・演習	リフレクション	(第2講) 講義・演習	リフレクション
		文部科学省講話  生徒指導に関する現状と課題  文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導室長 鈴木 慰人		生徒指導に関するマネジメント  愛媛大学 名誉教授 平松 義樹	
(水)	(第3講) 講義・演習	リフレクション	(第4講) 講義・演習	(第5講) 講義・演習(選択講座)	リフレクション
	生徒指導と学校コンプライアンス		学校・家庭・地域・外部機関との連携	性の多様性に係る児童生徒への指導と対応 宝塚大学 教授 日高 庸晴	
	銀座第一法律事務所 弁護士 戸田 恵蔵		東京理科大学 教授 中村 豊	児童虐待に係る児童生徒への指導と対応 ストレス対処法研究所 理事 丸山 里奈	
				ネットトラブルの未然防止及び解決に向けた指導と対応 全国ICTカウンセラー協会 代表理事 安川 雅史	
(木)	(第6講) 講義・演習	リフレクション	(第7講) 講義・演習	(第8講) 講義・演習	閉講にあたって
	事例研究		チーム学校のための コーチング	研修成果の活用	
	関西外国語大学 教授 新井 肇		別府大学 教授 佐藤 敬子	教職員支援機構	

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

※第5講(選択講座)については、教育相談指導者養成研修と共通の内容です。

## I 研修概要

研修名	教育相談指導者養成研修 (NITSオンライン研修)							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題は、依然として憂慮すべき状況にある。さらに、虐待や貧困など新しい形の問題が顕在化し、生徒指導上の問題は一層多様化、深刻化している。これらの問題に適切に対応するためには、教員個人が問題を抱え込むことなく、「チーム学校」の観点から学校全体で組織的に取り組むことや、外部機関や家庭、地域との連携・協働を促進して、効果的に教育相談を推進することが求められている。本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源と外部関係機関等をマネジメントした組織的な教育相談体制を構築し、効果的に教育相談を実践するための手法等を習得する。さらに、学校が組織的に子供たちの教育相談に取り組むことで、1) 教育相談に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の教職員であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	257	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	220	36	0	0	0	1	257
割合 (%)	85.9%	14.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	
	256	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新情報とともに、具体的な言葉や事例等を基に説明しており、イメージしやすかった。</li> <li>・インシデントプロセス法の演習の様子を見ることで、具体的なイメージがわきやすかった。</li> <li>・すぐに実践できること、課題がより明確になることは、自校で研修し管理職と話しができて大変よかった。</li> <li>・第3講や第4講選択講座のように、不登校や発達障害、喫緊の課題を有する児童生徒への具体的な対応を教えていただき、たいへんありがたかった。児童生徒や保護者が求めていることを知る手がかりを得た。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度新設の講義・演習「性同一性障害に係わる児童生徒の教育相談」と講義・演習「児童虐待に係わる児童生徒への対応」を、講義・演習「ネットトラブルの未然防止及び解決に向けた指導と対応」とあわせ、選択講座として継続実施した。これら3つの講座は、現代的な諸課題について重点的に取り上げるもので、受講者からの評価も高かった。</li> <li>・上記選択講座は、「生徒指導指導者養成研修」と「教育相談指導者養成研修」とで同様の内容にて実施した。これは、「生徒指導と教育相談の視点の融合により、よりよい指導の在り方を目指す」という前年度の改善点を踏まえたものである。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンライン研修に切り替えたことで、実施方法・内容等の大幅な変更が迫られ、同時双方向での研修は行えなかった。ただし、そうした状況でも、講義・演習「事例研究」では、事例研究の実施方法を、方法の解説と実際の取組例を受講者に視聴してもらうことで、対面集合型での研修により近づけることを試みた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド型からリアルタイム配信型にオンライン研修の形態を変更する。収録した講義動画を配信後、同時双方向通信を実施しグループプリフレクションを実施する。</li> <li>・次年度もオンラインでの研修実施となるが、受講者からの要望として多くあげられた通り、受講者同士の相互交流の機会を充実させる必要がある。</li> <li>・喫緊の教育相談の課題（性被害、学校のICT化など）について、講義・演習に盛り込む必要がある。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度 教育相談指導者養成研修（NITSオンライン研修）

9:00												16:00	
火	開講にあたって	文部科学省 講話	(第1講) 講義・演習		リ フ レ ク シ ョ ン	昼 休 憩	(第2講) 講義・演習				リ フ レ ク シ ョ ン		
		総合教育 政策局	教育相談にかかわる 現状と取組				教育相談の在り方						
		局長					(1) 教育相談の充実に向けて	(2) 教育相談の課題と実践					
		浅田 和伸	文部科学省児童生徒課 課長補佐 廣石 孝				清和大学非常勤講師 柳生 和男						
水	(第3講) 講義・演習				リ フ レ ク シ ョ ン	昼 休 憩	(第4講) 講義・演習（選択講座）				リ フ レ ク シ ョ ン		
	教育相談の効果的な実践		性の多様性に係る児童生徒への指導と対応										
	(1) 不登校児童生徒の支援と 教育相談	(2) 特別支援教育と 教育相談		宝塚大学 教授 日高 庸晴									
	FR教育臨床研究所所長 花輪敏男		児童虐待に係る児童生徒への指導と対応										
				ストレス対処法研究所 理事 丸山 里奈				ネットトラブルの未然防止及び解決に向けた指導と対応		全国ICTカウンセラー協会 代表理事 安川 雅史			
木	(第5講) 講義・演習				リ フ レ ク シ ョ ン	昼 休 憩	(第6講) 講義・演習		リ フ レ ク シ ョ ン	(第7講) 講義・演習		閉 講 に あ た っ て	
	事例研究						教育相談に関する マネジメントの推進			研修成果の 活用			
	(1) 事例研究の方法解説	(2) 事例研究の実際		神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男			教職員支援機構						
		日本教育カウンセラー協会理事 藤川 章											

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

※第4講（選択講座）については、生徒指導指導者養成研修と共通の内容です。

## I 研修概要

研 修 名	いじめの問題に関する指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	いじめ防止対策推進法（平成25年）は、いじめを“すべての児童生徒に関わる問題である”としている。そして、いじめ防止等の対策として、1）いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童生徒が十分に理解できるようにすること、2）いじめを受けた児童生徒の生命・心身を保護するため、関係諸機関が緊密に連携すること、を挙げ、これらに対し、組織的かつ総合的に取り組むことで、問題の根絶をめざしている。 本研修では、学校が組織的にいじめの未然防止および早期発見に取り組むために、1）いじめの問題に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2）学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受 講 期 間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	431	人	参加率	—
開 催 場 所 (配 信 元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	385	39	0	0	0	7	431
割合 (%)	90.8%	9.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	
	424	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関する専門的な知識はもちろん、学校現場の実態に即した講義が多かったので、大変有意義に学ぶことができた。</li> <li>・いじめの問題について歴史、現状、法律、実践など、様々な角度からの講義があつて良かった。</li> <li>・法化社会への対応と言うことで、弁護士先生の講座が大変参考になりました。</li> <li>・「つかむ」「深める」「生かす」の3段階で、研修全体が体系化されており、総合的に学びを深めることができた。</li> <li>・ネットいじめの講座では、現役の大学生も交えたパネルディスカッション形式の講義で、講師の先生の講義内容はもちろん、若者の生の声も聞けたのが良かった。</li> <li>・いじめの未然防止について、児童生徒の自己有用感を育むことの重要性や、そのために必要な組織体制づくりなど、具体的な実践例も多く挙げて講義いただき、大変勉強になりました。</li> <li>・冬期休業中には受講期間が設定されておらず、その直前に研修を受講することになるのでスケジュールが難しかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半に現状と課題から早期発見と適切な対応のための講座を配し、最終日に未然防止を主題とした講座を配し、学びの意図も明確になるよう工夫した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、集合型研修を取りやめ、オンデマンド型の研修を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた日程の中で有意義な学びを提供できるよう、各講座の内容・配列を精査する。</li> <li>・受講者のスケジュールリングに幅を持たせるため、研修実施時期及び受講期間について配慮する。</li> <li>・オンデマンド形式の研修に加えて、受講者同士の交流ができる環境の設定についても検討する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度いじめの問題に関する指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

	9:00								16:00			
(火)	開講にあたって	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	(第1講) 講義・演習		リフレクション	昼 休 憩	(第2講) 講義・演習		リ フ レ ク シ ョ ン	(第3講) 講義・演習		リ フ レ ク シ ョ ン
			いじめの問題に関する現状と課題  文部科学省初等中等教育局児童生徒課 課長 江口 有隣				いじめの問題の捉え方  国立教育政策研究所 客員研究員 滝 充			いじめの問題への組織的 な取組の考え方  関西外国語大学 教授 新井 肇		
(水)	(第4講) 講義・演習		リ フ レ ク シ ョ ン	(第5講) 講義・演習		昼 休 憩	(第6講) 講義・演習			リ フ レ ク シ ョ ン		
	法を踏まえた いじめ問題への対応  おにざわ法律事務所 弁護士 鬼澤 秀昌			保護者との連携、 信頼関係構築の在り方  神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男			ネットいじめの未然防止及び解決に向けた指導と対応  兵庫県立大学 准教授 竹内 和雄					
(木)	(第7講) 講義・演習			リ フ レ ク シ ョ ン	昼 休 憩	(第8講) 講義・演習		リ フ レ ク シ ョ ン	(第9講) 講義・演習		閉 講 に あ た っ て	
	いじめの未然防止に向けたマネジメントの推進(1)  日本大学 教授 藤平 敦					いじめの未然防止に向け たマネジメントの推進(2)  日本大学 教授 藤平 敦			研修成果の活用  教職員支援機構			

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修（NITSオンライン研修）					
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室					
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、学校教育法施行規則が改正され、日本語の能力に応じた特別の指導を行うための特別の教育課程を編成し、実施することが可能となった。新学習指導要領において「海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒の指導」の重要性が示されている。さらに、「出入国管理及び難民認定法」が平成30年に改正され、日本語指導が必要な児童生徒等が今後さらに増加することが予想される。このような実態を踏まえ、児童生徒等の実態に応じた適応指導・日本語指導を関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、組織的・計画的に学校、地域全体で行うことを指導できる教職員の専門性を高めることが必要である。 本研修では、新学習指導要領に基づいて、地方公共団体や学校全体での外国人児童生徒等の受入れ体制の整備、関係機関との連携、特別な教育課程の編成や通級による指導を含めた日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得する。さらに本研修後の成果活用を通して、1) 外国人児童生徒等に対する教育の推進に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校や地域において研修を企画・実施し、学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者</li> <li>・外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生</li> </ul>					
受講期間	令和3年1月19日（火）～			令和3年2月4日（木）		1パッケージ3日間×3週
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	358	人
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）					

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	300	53	0	0	0	5	358
割合 (%)	85.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	
	353	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者を絞った研修を受けたい。現場の日本語担当者用のみ、校長のみなど。</li> <li>・経験のみに頼る日本語指導ではなく、研修全体として必要な内容が網羅されており、理論から学ぶことができよかった。</li> <li>・どの講義も、事例が多く取り上げられていて、イメージしやすく良かった。失敗例を挙げてくださった講師の方もいらしたが、全国でもそういう失敗例が積み重なって、今の理論の構築に至っているのだと思うと、先進的に取り組んでこられた方には頭の下がる思いがした。そういうリアルさが、今回の研修の最も良かったと感じたところです。</li> <li>・自分でプランを作成したり、自己評価をしたりするなど、実際に活動できる内容がもりこまれていて、実践的な部分もあったので、ただ一方的な講義を聴くだけでなく、実りのある研修になった。また、どのようなことを研修するのか順序性が分かりやすく示されており、何を学ぶのかの視点をもって受講することができた。参考書籍についても記載されており、今後の自己研鑽に役立つ資料やサイトの提示もあり、これからは学んでいこうとする意欲がもて、大変有意義な研修になった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染状の感染拡大防止の観点から、つくば中央研修センターが主導して、非集合型オンライン研修を実施した。</li> </ul> <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめてのオンライン研修でみえてきた当該研修の意義や課題を生かしながら、三重県での集合型研修を実施する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

	9:00								16:00
(火)	開講にあたって	文部科学省講話	(第1講) 講義	(第2講) 講義	リフレクション	昼 休 憩	(第3講) 講義	(第4講) 講義	リフレクション
			外国人児童生徒等に対する教育施策  文部科学省総合教育政策局国際教育課長 北山 浩士	本研修の目的 －外国人児童生徒等教育を担当する教員の資質・能力とその育成－  京都教育大学教授 浜田 麻里			外国人児童生徒等教育の現状と課題 －多文化共生・学習権・市民性の視点から－  明治大学 特任教授 佐藤 郡衛	外国人児童生徒等の受入れ・指導体制 －自治体・学校の体制作りとその例－  目白大学 専任講師 近田 由紀子	
(水)	(第5講) 講義			リフレクション	昼 休 憩	(第6講) 講義			リフレクション
	「子どもの日本語教育」の理論と方法 －言語習得・バイリンガリズム・コースデザイン・指導方法－  東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ					児童生徒の年齢的発達と日本語指導Ⅰ(小学生) －実態把握と日本語指導－  甲府市立大國小学校 教諭 今澤 悌			
(木)	(第7講) 講義			リフレクション	昼 休 憩	(第8講) 講義・演習			閉講にあたって
	児童生徒の年齢的発達と日本語指導Ⅱ(中学生以上) －日本語指導とキャリア・多文化教育－  豊橋市教育委員会 外国人児童生徒教育相談員 築樋 博子					研修成果の活用に向けて －研修のまとめ・研修プランの作成－  京都教育大学 教授 浜田 麻里			

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研修名	体力向上マネジメント指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担当講師	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した子供たちの体力向上を図るための手法等を修得する。さらに、学校が組織的に子供たちの体力の向上に取り組むことで、1) 子供たちの体力に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>各都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事及びこれに準じる者</li> <li>幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等</li> <li>当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	176	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	143	29	0	0	2	2	176
割合 (%)	82.2%	16.7%	0.0%	0.0%	1.1%	1.1%	
	172	98.9%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>高い専門性の知見や分析結果など、今まで具体的に知り得なかった情報や考え方を学ぶ機会となった。</li> <li>体力向上に関して専門的な知見・取組事例を学べるだけでなく、その後の研修方法まで具体的に教えていただけたことが、今後の自分自身の向上に繋がると感じました。</li> <li>全講話の核となる部分が共通していて、話が分かり易かった。</li> <li>プログラムの構成に繋がりがあり、学びが深まっていくことを実感しました。</li> <li>他校の具体的な実践事例を知ることができて良かったです。実践のヒントになりました。</li> <li>学校全体のマネジメントの考え方など、これまでに聞き取ることができなかった話を聞くことができ、大変勉強になった。</li> <li>重要なのは理解しているが、講義内容の重複がいくつか見られたので、精選を図っていただけるとありがたいです。</li> <li>実践事例を増やしてもらえると、学校現場として活用できるアイデアも増え、より充実した研修になると思う。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、非集合型オンライン研修により実施した。</li> <li>一部講座を「幼小コース」「中高コース」の選択式にした。</li> <li>本研修は、学校教育活動全体を通じた子供の体力向上を図るための指導者養成を目的としており、体育・保健体育の教科の専門性を問うものではないことを実施要項に明記した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度のオンデマンド型から、同時双方向で交流が可能なリアルタイム・オンライン研修へ移行を図る。</li> <li>引き続き、学校教育活動全体を通じた子供の体力向上を図るための指導者養成を目的としていることの周知・徹底を図る。</li> <li>学びを深めるための、リフレクションの在り方について、検討する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



令和2年度 体力向上マネジメント指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00									16:00
(火)	開講にあたって	講話 文部科学省講話 文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	(第1講) 講義・演習 学校全体で取り組むマネジメントの在り方 茨城大学 教授 加藤 崇英	リフレクション	昼休憩	(第2講) 講義・演習 学校の体力向上マネジメントの基本的な考え方 埼玉大学 准教授 石川 泰成	リフレクション		
		(第3講) 事例発表 体力向上の取組事例について 【コース選択式】	リフレクション	昼休憩	(第4講) 講義・演習 体力向上に関する指導者の役割 【コース選択式】	リフレクション			
(水)	【幼小コース】	お茶の水女子大学附属幼稚園 教諭 杉浦 真紀子	京都市立下京雅小学校 主幹教諭 西田 鉄平	リフレクション	昼休憩	【幼小コース】	岐阜大学 教授 春日 晃章	リフレクション	
	【中高コース】	袖ヶ浦市立平川中学校 校長 若林 雅夫	愛知県立時習館高等学校 教諭 浅倉 健登			【中高コース】	順天堂大学 准教授 荻原 朋子		
(木)		(第5講) 講義・演習 子供の体力向上を図るために スポーツ庁政策課 教科調査官 塩見 英樹 教科調査官 関 伸夫	リフレクション	昼休憩	(第6講) 講義・演習 研修成果の活用 教職員支援機構	閉講にあたって			

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修 (NITSオンライン研修)							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	<p>健やかな体の育成は、心身の調和的な発達の中で図られ、生涯にわたる幸福で豊かな生活の実現と密接にかかわるものです。児童生徒の心身の調和的な発達を図るためには、健康的な生活習慣を形成することが必要です。</p> <p>本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した健康教育推進のための方策を学びます。さらに、学校が組織的に子供たちの健康教育を推進することで、1) 子供たちの健康に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図ります。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにこれに準じる者</li> <li>幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校(園)長、副校(園)長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭であって、各学校や地域において本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>当機構の修了証書をもって単位認定を行う(予定を含む)教職大学院の学生(教職経験のある者に限る)</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日(火)～令和2年12月17日(木)				1パッケージ3日間×5週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	370	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター(茨城県つくば市)							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	308	59	1	0	0	2	370
割合(%)	83.7%	16.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	
	367	99.7%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の健康に関する直近の諸問題について、詳しく学ぶことができ、タイムリーで学校現場に還元できる内容であった。</li> <li>資料や参考文献の提示が充実していた。</li> <li>学習指導要領の改訂の狙いと現代的課題、課題解決のための方策についてなどを学ぶことによって、自分の今までの職務内容を振り返り、改善点を考えるきっかけとなった。</li> <li>各専門家の先生のわかりやすい講義を受講し、マニュアルの見直しや最新の情報を得たことで、現在の対応や働き方について確認できる時間となり、改善点等が明確になった。また、知見の幅が広がり、指導のアイデアが増えた。</li> <li>講義をきくだけでなく、他者と話し合うことでさらに学びを得ると思うので、学んだことを深めることが一人だと難しいと感じた。</li> <li>演習形式のものができず、理解が独りよがりになっていないかが不安である。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童虐待の講義を全員が受講するようにしたが、受講者からの反響も大きかった。</li> <li>健康教育推進の講義の中で、中・高の新学習指導要領にも明記された「がん教育」について取り上げていただいた。</li> <li>高等学校の新学習指導要領に新たに明記された精神疾患について、講義を設定した。</li> <li>新型コロナウイルス感染症への対応に関わる内容を複数の講義で取り上げた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンデマンド型からリアルタイム配信型にオンライン研修の形態を変更する。</li> <li>引き続き、健康教育に関わる現代的な課題への対応を踏まえた内容を検討する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度 健康教育指導者養成研修(オンライン研修)日程表

	9:00										16:00
火	開講にあたって	文部科学省 講話  文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	(第1講) 講義・演習  健康教育の推進  文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 横嶋 剛	リフレクション	(第2講) 講義・演習  学校保健マネジメント  筑波大学 体育系 教授 柳沢 和雄	リフレクション	昼休憩	(第3講) 講義・演習  保健管理の在り方  文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 松崎 美枝	リフレクション	(第4講) 講義・演習  保健管理の在り方 (環境衛生)  文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 小出 彰宏	リフレクション
水			(第5講) 講義・演習  薬物乱用防止教育の推進  文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 小出 彰宏	リフレクション	(第6講) 講義・演習  保健教育における 精神疾患の取り扱い  東邦大学 医学部 教授 水野 雅文	リフレクション	昼休憩	(第7講) 講義・演習  子供の心のケア  跡見学園女子大学 教授 松崎 くみ子	リフレクション	(第8講) 講義・演習  学校における 感染症対策の在り方  国立感染症研究所 感染症疫学センター 室長 多屋 馨子	リフレクション
木			(第9講) 講義・演習  学校における アレルギー疾患に対する取組  独立行政法人国立病院機構 三重病院 院長 藤澤 隆夫	リフレクション	(第10講) 講義・演習  児童虐待への対応  明星大学 常勤教授 川松 亮	リフレクション	昼休憩	(第11講) 講義・演習  研修成果の活用  教職員支援機構		閉講にあたって	

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。  
 ※午前・午後ともに150分(2本の講義・演習とリフレクション)で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研 修 名	食育指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	食は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、子供には、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせることが大切です。食生活の乱れや肥満・痩身傾向等、子供の食に関する課題を解決するためには、学校を核として家庭と連携し効果的に子供の食に関する自己管理能力を目指すことが重要です。 本研修では、学校全体で校長のリーダーシップの下に、日々の教育活動、学校の資源を一体的にマネジメントした各学校や地域の実態等に即した食育推進のための方策を学びます。さらに、学校が組織的に子供たちの食育を推進することで、1) 子供たちの食に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力、を習得した指導者の養成を図ります。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県及び市町村教育委員会の指導主事等であって、食に関する指導を担当する者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・栄養教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受 講 期 間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	241	人	参加率	—
開 催 場 所 ( 配 信 元 )	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	198	39	0	0	0	4	241
割合 (%)	83.5%	16.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	
	237	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい知識と実践例を、専門性の高い講師陣の講話により学ぶことができた。</li> <li>・食に関する指導の手引き・学習指導要領等について、冊子の要点を見直す機会が取れてよかった。</li> <li>・全体計画をどのように作成していくかを学ぶことができ、今後の実践の参考になった。</li> <li>・実践例の資料や写真などがもっとあるとよかった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、集合型研修を取りやめ、オンデマンド型の研修（3日間）を実施した。</li> <li>・各講義を講義動画＋リフレクションの構成とし、研修の学びを個人の学校、地域等の実践と結びつけて考える時間を多く確保した。</li> <li>・本研修は、指導者の養成を目的とした研修であることを実施要項等に明記するとともに、事前課題・最終講義等で成果活用の計画を具体的に立てる内容を盛り込んだ。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リアルタイム配信型にオンライン研修の形態を変更し、受講者同士の情報共有や意見交換の場を設ける。</li> <li>・リフレクションの時間の持ち方や講座の配置等を工夫する等、学びを深めるための方策を検討する。</li> <li>・引き続き、指導者としての研修成果活用について受講者および推薦者に周知・徹底を図る。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和2年度食育指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00										16:00	
(火)	開講にあたって	文部科学省 講話	(第1講) 講義・演習			リフレクション	昼 休 憩	(第2講) 講義・演習			リフレクション
		文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	学校における食育の推進  文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 食育調査官 清久 利和					学校給食を活用した食育の推進  文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 学校給食調査官 齊藤 るみ			
(水)	(第3講) 講義・演習			リフレクション	昼 休 憩	(第4講) 講義		リフレクション	(第5講) 講義		リフレクション
	食育を効果的に推進するための カリキュラム・マネジメントの進め方  新潟医療福祉大学 健康科学部健康栄養学科 教授 森泉 哲也					各教科等における食に関する 指導のポイント 【総合的な学習の時間】  文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程調査官 渋谷 一典			各教科等における食に関する 指導のポイント 【体育、保健体育】  文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 横嶋 剛		
(木)	(第6講) 講義		リフレクション	(第7講) 講義		リフレクション	昼 休 憩	(第8講) 講義・演習			閉講にあたって
	各教科等における食に関する 指導のポイント 【家庭、技術・家庭】  文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程調査官 丸山 早苗			各教科等における食に関する 指導のポイント 【特別活動】  文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程調査官 安部 恭子				研修成果の活用  教職員支援機構			

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研修名	学校安全指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校安全における三領域（生活安全・交通安全・災害安全）に関し、必要な知識等を習得させ、各地域における研修講師等として、1）学校安全に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2）学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮し、指導・助言等を行うことのできる指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者</li> <li>・幼稚園の園長、副園長、及び小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭、養護教諭等であって、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の企画、運営または講師等としての活動を行う予定である者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）			1パッケージ3日間×5週				
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	253	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	227	23	0	0	0	3	253
割合 (%)	90.8%	9.2%	0.00%	0.00%	0.00%	3.0%	100.0%
	227	23	0	0	0	3	253

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全の基礎知識や、様々な学校安全の領域について学ぶことができた。また、第4講「学校事故事例報告」については、学校に勤務するものとして心身ともに引き締まるものがあった。</li> <li>・心に響く講義が多く、学校安全についての学びが広がりました。特にご遺族の方の講義は、胸が震えました。色々な思いをもって登壇されていることと拝察致します。</li> <li>・「元気に登園してきた子ども達を、元気に保護者の元に返す」当たり前の事だが、1番大切な事。命の重み、守る責任を改めて胸に刻んだ。</li> <li>・講師の方々から、専門性の高いお話や、学校事故に関する当事者の声を聴くことができ、たいへん貴重な研修となりました。</li> <li>・リフレクションを通しながら、各講義を系統的に聞くことができた点が良かった。</li> <li>・カリキュラムマネジメントの視点、新学習要領の視点で安全教育を計画する重要性を再確認できた。また、今まで行ってきた教育活動と安全教育の考え方は、全て通づるものがあることも再認識できた。</li> <li>・研修員同士で協議をしたり、講師に直接質問したりすることで、学びを深めることができる集合型研修のメリットもあるが、本研修においては、研修講師陣の講義内容が充実していたため、一人での研修でも十分に学びを得ることができた。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者としての危機管理能力を高め、災害等の危機管理に関するシミュレーションができるようにした。</li> <li>・有意義なリフレクションができるよう、安全教育のカリキュラム・マネジメントの講義を前半に行った。</li> <li>・各講の講義・演習や講話については、関係機関と連携し、研修効果を高めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、非集合型オンライン研修により実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性犯罪、性暴力の内容について、講義に入れる。</li> <li>・文科省で作成中の「マニュアル見直しガイドライン」「事例集」を周知していく。</li> <li>・学校事故事例報告については、ご遺族の方の講義を今後も継続していく。</li> <li>・「チーム学校安全」として、講師の方々との検討会議も行いたい。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

## 令和2年度 学校安全指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00												16:00	
(火)	開講にあたって	文部科学省 講話  文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	(第1講) 講義 学校安全の現状と課題				リ フ レ ク シ ョ ン	昼 休 憩	(第2講) 講義 発達の段階に応じた効果的な教育と組織活動①				リ フ レ ク シ ョ ン
			学校安全の現状と課題  文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室安全教育調査官 森本 晋也	学校安全の考え方  東京学芸大学 教授 渡邊 正樹	学校安全	交通安全			大阪教育大学学校安全推進センター 教授 藤田 大輔	東北工業大学教育課程センター 教授 小川 和久			
(水)			(第3講) 講義 発達の段階に応じた効果的な教育と組織活動②				リ フ レ ク シ ョ ン	昼 休 憩	(第4講) 講義 学校事故事例報告			リ フ レ ク シ ョ ン	
	災害安全  東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健	学校事故対応  東京学芸大学 教授 渡邊 正樹	不審者対応  酒井 智恵	救命処置  桐田 寿子	災害発生時の対応  名取市立みどり台中学校 校長 平塚 真一郎								
(木)			(第5講) 講義 学校の危機管理体制と想定外の状況における危機管理の在り方				リ フ レ ク シ ョ ン	昼 休 憩	(第6講) 講義 学校の危機管理体制と想定外の状況における危機管理の在り方			リ フ レ ク シ ョ ン	閉 講 に あ た っ て
	危機管理体制の現状と課題  (株)社会安全研究所 所長 首藤 由紀	想定外の状況における危機管理の在り方  岩手大学地域防災研究センター 客員教授 越野 修三	学校の危機管理マニュアルの見直し  岩手大学地域防災研究センター 客員教授 越野 修三		研修成果の活用 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室安全教育調査官 森本 晋也								

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担当講師	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、校長のリーダーシップの下、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実と道徳教育の展開、実践活動や豊かな体験活動の充実、「特別の教科 道徳」の指導と評価等について、必要な知識等を習得させ、各地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	577	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	509	63	2	0	0	3	577
割合 (%)	88.7%	11.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	
	572	99.7%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5講「道徳教育アーカイブの授業の視聴～道徳科の指導・助言の在り方～」で指導助言を記入する指示があり、指導者の立場をより強く実感した。</li> <li>・実際に道徳教育や道徳科について理解した後で、授業を視聴する構成が大変よかった。</li> <li>・研修内容に関して、せめて感想を共有できるような時間があると研修がさらに深まると思う。</li> <li>・文科省作成の「道徳教育アーカイブ」において複数の授業を視聴することができたのが有意義であった。この研修後も引き続き活用できることがありがたい。</li> <li>・道徳教育について、特別活動や特別支援の観点からも学ぶことができたことが一番印象に残っている。特別支援学級の道徳を参観する機会がなかったのが、実際にどのように工夫されているのかがよく分かった。</li> <li>・資料が充実しており理解につながり易かった。</li> <li>・事前課題が、思っていたよりも生かされなかった。「事前に作成することで…」という意図は理解したが、無理に作成しなくても十分内容が理解できる、分かりやすい講義であった。夏休みの研修とは違い、通常業務期間での課題作成であったため、時期の検討もしていただきたい。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで研修の当初に「道徳教育の充実」の講義を実施していたところに、「道徳教育のマネジメント」の講義を置き、より意図的・計画的に道徳教育の充実を図ることができるよう構成した。</li> <li>・文部科学省「道徳教育アーカイブ授業」の動画を視聴し、指導助言を検討する講義を実施し、指導者としての資質の向上を図った。</li> <li>・特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育の講義を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者養成研修から推進研修となるため、受講者に合わせ、研修内容、事前課題等を再検討する必要がある。</li> <li>・受講者同士交流する場や講師へ質問できる場の設定について、検討する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



令和2年度 道徳教育指導者養成研修(NITSオンライン研修)

		9:00					16:00	
(火)		開講にあたって	文部科学省講話 文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	(第1講) 講義 道徳教育のマネジメントについて 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	リフレクション	昼休憩	(第2講) 講義 実践活動や体験活動を通じた道徳教育 ～道徳的実践の重要な学習活動の場としての特別活動～ 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子	リフレクション
(水)	小・中学校部会		(第3講) 講義 特別の教科 道徳の指導と評価 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	リフレクション	昼休憩	(第4講) 講義 特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育 ～特別支援学級における道徳科の在り方を中心に～ 聖徳大学 名誉教授 吉本 恒幸	リフレクション	
	高等学校部会	(第3講) 講義 人間としての在り方生き方に関する教育の展開 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	リフレクション					
(木)	小・中学校部会		(第5講) 講義 道徳教育アーカイブの授業の視聴 ～道徳科の指導・助言の在り方～ 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見 哲也	リフレクション	昼休憩	(第6講) 講義・演習 道徳教育を推進するリーダーとして 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	閉講にあたって	
	高等学校部会	(第5講) 講義 道徳教育アーカイブの授業の視聴 ～道徳科の指導を高校での道徳教育に活かすために～ 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 飯塚 秀彦	リフレクション					

※ 午前・午後とも、講義・演習とリフレクションの150分で構成しています。適宜、休憩を取りながら受講願います。

※ 「リフレクション」とは、受講者自身の教育実践を振り返りつつ、講義内容について理解を深める演習の時間です。

## I 研修概要

研修名	学校教育の情報化指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	<p>「GIGAスクール構想の実現」を踏まえ、児童生徒1人1台端末の環境におけるICTの効果的な活用を一層促進するとともに、新学習指導要領において、「情報活用能力」が全ての学習の基盤となる資質・能力として位置付けられたことを踏まえ、その育成のため、教師のICT活用指導力の向上を図る必要がある。これらを円滑に実施するためには、地域や学校の実態に即して学校教育の情報化を組織的に推進することが重要である。</p> <p>本研修では、各学校や地域における学校教育の情報化を組織的に推進する指導者として必要な知識を習得する。さらに、研修後の成果活用を通して、1) 学校教育の情報化に関する諸課題の改善に専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、2) 学校、地域において教職員の専門性向上を推進する力、を發揮できる指導者の養成を図る。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者</li> <li>・小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	865	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く意義がなかった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	656	191	4	0	0	14	865
割合 (%)	77.1%	22.4%	0.5%	0.0	0.0	1.6%	
	847	99.5%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想を中心とした、学校教育の情報化について、体系的かつ全体的に学ぶことができた。</li> <li>・プログラミング教育に関する地域での研修の場において、本研修で学んだことを積極的に伝えていきたい。</li> <li>・最新の国等の施策について、市内の教職員に伝える内容があり充実していた。2年前にも受講したが、同じ講師でも内容が更新されており、既存知識を踏まえてさらに内容を理解することができた。</li> <li>・GIGAスクール構想について、概括的かつ具体的な講義を聴講することができた。地域の各研修会等においては、学校教育の情報化に関する最新の情報や、知識・技能について、積極的に伝えていきたい。</li> <li>・理論的・実践的な内容だけでなく、様々な角度から学校教育の情報化について学ぶことができた。</li> <li>・GIGAスクール構想については、世界の動向や社会的背景をもとにその意味や意義を具体的に知ることができた。</li> <li>・1人1台端末の具体的な活用方法など、今後につながる知識を知ることができ、市教委や学校現場に還元していきたい。</li> <li>・各講においてリフレクションの時間が確保されていることで、習得した知識のまとめやその活用の仕方、各研修へのいかし方について整理することができた。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Society5.0を見据え、先端技術を活用した教育の必要性が高まっていることに対応できる研修にした。</li> <li>・情報の科学的理解及びプログラミング教育に関する内容の難易度については、実際に活用する学校教育現場に合わせて調節した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、非集合型オンライン研修により実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場におけるICT活用に関する取組については、各校種において具体的な実践事例を取り入れていく。</li> <li>・GIGAスクール構想を見据え、関係機関との連携や臨時休業時等にも対応できるICT活用に関する研修を推進することができる内容にしていく。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度 学校教育の情報化指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00				16:00			
(火)	開講にあたって	文部科学省講話	(第1講) 講義	リフレクション	(第2講) 講義	リフレクション	
			社会的背景と教育の情報化		情報活用能力の育成①		
			新しい時代における教育の情報化 教育改革の方向性を見据え、現状と課題とを踏まえた学校教育の情報化推進方策の全体像について	各地域における学校教育の情報化の推進の現状と課題 各地域における学校教育の情報化に関する取組等について	学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力 新学習指導要領における情報活用能力の育成を行う上で重要なポイントについて	プログラミング教育の推進 プログラミング的思考の育成について考え、発達段階に応じた指導について	
		文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	文部科学省 初等中等教育局情報教育・外国語教育課 課長 今井 裕一	文部科学省 初等中等教育局情報教育・外国語教育課情報教育振興室 室長 水間 玲	東北学院大学文学部教育学科 教授 稲垣 忠	宮城教育大学技術教育講座 教授 安藤 明伸	
(水)	情報社会に主体的に参画する態度を育む指導を行うため、学校の組織的な対応や発達段階に応じた体系的な情報モラル教育(情報セキュリティに関する教育を含む)について	(第3講) 講義	リフレクション	(第4講) 講義	リフレクション		
		情報活用能力の育成②		教科等の指導におけるICT活用			
		情報モラル教育(情報セキュリティに関する教育を含む)の充実	教科等の指導におけるICT活用の意義 教科等の指導におけるICT活用の意義とその必要性について	ICT活用を前提とした授業設計 教科等の目的の実現に向けて、効果的かつ計画的なICT活用による授業改善について			
		静岡大学教育学部学校教育講座 准教授 塩田 真吾	信州大学教育学部 助教 佐藤 和紀	東京学芸大学教育学部 准教授 高橋 純			
(木)	閉講にあたって	(第5講) 講義	リフレクション	(第6講) 講義	リフレクション		
		学校及びその設置者等における教育の情報化に関する推進体制		学校の臨時休業等におけるICTを活用した取組、研修成果の活用			
		教師に求められるICT活用指導力 教師のICT活用指導力の重要性について	教育委員会・学校としての推進体制 (教師の研修・校務の情報化) 教育委員会・学校が果たすべき役割(研修・校務におけるICT活用)、ICT支援員をはじめとした外部人材などの活用について	学校の臨時休業等におけるICTを活用した取組 小・中・高等学校におけるICTを活用した学習の取組について(環境整備、ICTの有効活用、家庭学習用教材の充実、クラウド等を活用した教育のテレワーク等)	第1講から第5講までの総括		
		鹿児島大学 准教授 山本 朋弘	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 玉置 崇	小学校での取組 【小学校】 熊本県高森町教育委員会 審議員兼教育CIO補佐官 古庄 泰則	中学校での取組 【中学校】 上越教育大学附属中学校 指導教諭 市村 尚史	高等学校での取組 【高等学校】 神奈川県立川崎北高等学校 校長 柴田 功	尼崎市教育委員会教育長 松本 真

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。  
 ※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。  
 ※各講義は「教育の情報化に関する手引き-追補版-(令和2年6月)」及び「GIGAスクール構想の実現」の実態を踏まえた内容とする。

## I 研修概要

研修名	人権教育指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担当講師	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	学校教育には、児童生徒に人権感覚を身につけさせ、人権意識を尊重して行動できるような教育を実施することが求められており、各学校においては、「人権教育の指導方法等の在り方について（第三次とりまとめ）」の提言を踏まえ、人権教育の指導方法等の改善・充実を図ることが求められている。 本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するため、各学校や地域において人権教育を組織的に推進する指導者として必要な知識等を習得する。さらに、研修後の成果活用を通して、1) 人権教育に関する専門的知見を活用して組織的な取組を推進する力や、2) 学校、地域の教職員の専門性向上を推進する力を修得した指導者の養成を図る。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭等</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受講期間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受講人数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	170	人	参加率	—
開催場所 (配信元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	138	30	0	0	0	2	170
割合 (%)	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	
	168	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な個別の人権課題について最新の情報や新たな知見が得られ、人権教育に関する知識・理解が深まった。大変充実した研修内容だった。</li> <li>・講師の方々から専門的で質の高い講義をしていただき、励ましの言葉や熱意のこもった言葉に力づけられた。</li> <li>・人権教育を取り巻く国や世界の動向、個別の人権課題、さらに人権教育を推進するリーダーとして、という流れがロジカルで理解しやすかった。</li> <li>・講師陣が研究者から当事者、学校現場の教職員と多岐に渡っていた点がよかった。</li> <li>・非常に有意義だと感じる講座が多かったが、現場で求められている課題とずれを感じたり、あまり有用だと思えないデータや講義が多い講座もあった。</li> <li>・できれば全ての講義で講義資料をダウンロードできるようにしてもらいたい。内容要旨だけでもあればありがたい。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、集合型研修（5日間を予定）を取りやめ、オンデマンド型の研修（3日間）を実施した。</li> <li>・ハンセン病に関する教育の実施ならびに外国人児童生徒の人権と教育支援についての講義を新たに設けた。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で取り上げる個別的人権課題については、最新の動向や受講者のニーズを踏まえて再検討する。</li> <li>・オンデマンド型からリアルタイム配信型にオンライン研修の形態を変更する。</li> <li>・同時双方向通信（グループ・リフレクション（+シェアリング））を実施する。</li> <li>・受講者の作成した研修成果物等に対する講評文の執筆を講師に依頼する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度人権教育指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

								9:00		16:00		
(火)	開講にあたって	文部科学省講話	(第1講) 講義		昼 休 憩	(第2講) 講義・演習		リフレクション				
			人権教育を取り巻く国の動向等について  文部科学省初等中等教育局 児童生徒課 内閣官房拉致問題対策本部 法務省人権擁護局			国内外の動きと学校における人権教育  学習院大学 教授 梅野 正信						
(水)	(第3講) 講義		(第4講) 講義・演習		昼 休 憩	(第5講) 講義・演習		(第6講) 講義・演習		リフレクション		
	ハンセン病に関する教育の実施  国立療養所色久光明園 園長 青木美憲		障害理解を中心とした心のバリアフリー  上越教育大学 准教授 池田 吉史			外国人児童生徒の人権と教育支援  上越教育大学 准教授 原 瑞穂		学校で配慮と支援が必要なLGBTの子どもたち  宝塚大学 教授 日高 庸晴				
(木)	(第7講) 講義		(第8講) 事例発表		昼 休 憩	(第9講) 講義・演習		リフレクション				
	インターネットを通じた人権侵害  情報文化総合研究所 代表取締役 佐藤 佳弘		学校における人権教育の改善・充実について  三重県教育委員会 たつの市教育委員会 広島県立河内高等学校			人権教育を推進するリーダーとして一研修講師、企画・運営に向けて一  学習院大学 教授 梅野 正信 大阪教育大学 教授 森 実			閉講にあたって			

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研 修 名	幼児教育指導者養成研修（NITSオンライン研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研 修 目 的	子ども・子育て支援新制度の施行を踏まえ、質の高い幼児教育を全国の全ての子供に保障するため、幼児教育を担当する指導主事等に対し、幼児教育の指導の充実や小学校教育との円滑な接続、評価を含めたカリキュラム・マネジメントの適正な実施など、幼児教育の指導者として必要な知識等を習得させ、本研修成果を活用し、1) 各園や地域において質の高い幼児教育を推進する力、2) 各園や地域の教職員の専門性向上を推進する人材育成・研修推進力を育成する。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県・指定都市・中核市の幼児教育担当指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準ずる者（認定こども園、保育所の指導・助言を行う者を含む）</li> <li>・国公私立幼稚園・保育所・認定こども園の教職員であって、各学校（園）や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者としての活動を行う者</li> <li>・当機構の修了証書をもって単位認定を行う（予定を含む）教職大学院の学生（教職経験のある者に限る）</li> </ul>							
受 講 期 間	令和2年11月10日（火）～ 令和2年12月17日（木）				1パッケージ3日間×5週			
受 講 人 数	標準定員 (計画人数)	—	人	受講者数	326	人	参加率	—
開 催 場 所 (配 信 元)	独立行政法人教職員支援機構 つくば中央研修センター（茨城県つくば市）							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」、「大変有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く意義がな かった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	248	69	0	0	0	9	326
割合 (%)	78.2%	21.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	
	317	100.0%					

2. 研修に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番は新型コロナウイルス感染症の影響で、全国の保育現場での対応策を発信してくれたことが、即、実行に移せる気持ちになり、ありがたかったです。</li> <li>・研修全体の流れが良かったと思います。講義項目は、これまで受講したことがない内容もあり、また実践事例がたくさん用意されていたので、大変参考になりました。コロナ対策最中の園の様子、なかなか得られない他地域の現場の情報等、貴重です。</li> <li>・コロナ禍での問題点等タイムリーな研修内容で役立つ事が多かった。</li> <li>・幼稚園（幼児教育）は、他校種の教科や分野のようにそれぞれに担当がいることが少なく、研修の幅が非常に広いと感じた。不易な部分と今日的課題を交えた研修が組まれておりとてもよかったです。</li> <li>・リフレクションで視点を示されていることで、振り返りが具体的にできて良かった。</li> </ul>
--

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、集合型研修（4日間）を取りやめ、オンデマンド型の研修（3日間）を実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症への対応に関わる内容を講義内で取り上げた。</li> <li>・理論と実践（具体の取組）をバランス良くカリキュラムに組み込んだ。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育は研修内容の幅が広いので、引き続き講義内容の精選を図る。</li> <li>・次年度も理論と実践（具体の取組）をバランス良くカリキュラムに組み込む。</li> <li>・指導者の養成を目的としていることを周知・徹底するため、受講対象者を明確にした実施要項、事務連絡等の工夫を図る。</li> <li>・受講者同士の情報共有・交換の場の在り方について検討する。</li> </ul>
---

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

令和2年度幼児教育指導者養成研修(NITSオンライン研修) 日程表

9:00		16:00						
(火)	開講にあたって	文部科学省講話  文部科学省 総合教育政策局 局長 浅田 和伸	(第1講) 講義	リフレクション	昼 休 憩	(第2講) 講義	リフレクション	
			幼児教育の重要性と現状  文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 井上 睦子			幼児教育を推進するための体制整備に向けた自治体の 取組事例と幼稚園再開後の工夫と課題  沖縄県教育庁義務教育課 指導主事 安慶名 名奈 神戸市立小東山幼稚園 園長 山田 敦子 学校法人ひじり学園せんりひじり幼稚園 園長 安達 謙		
(水)			(第3講) 講義	リフレクション	昼 休 憩	(第4講) 講義	リフレクション	
	外国人幼児や障害のある幼児等の受入れに当たっての 体制整備と配慮事項  文部科学省初等中等教育局幼児教育課 子育て支援指導官 澤田 佳代 大阪市立愛珠幼稚園 井谷 正美 國學院大學 教授 高橋 幸子		「指導計画の作成と保育の展開」の基本的な考え方と 取組の実際  文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官 小久保 篤子 名古屋学芸大学 教授 津金 美智子 目黒区立みどりがおかこども園 園長 高橋 慶子					
(木)			(第5講) 講義	リフレクション	昼 休 憩	(第6講) 講義	リフレクション	閉 講 に あ た っ て
	幼稚園における「実効性ある学校評価」の手法  (公社)全国幼児教育研究協会 顧問 岡上 直子 (公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 副理事長 宮下 友美恵		幼児の実態や家庭・地域の実態等を踏まえた園の研修の 企画立案について  高知県教育委員会事務局 幼保支援課 専門企画員 岡林 律子					

※「リフレクション」とは、講義内容について、自身の教育実践を振り返りつつ理解を深める、個人またはグループ演習の時間です。

※午前・午後ともに、講義・演習とリフレクションで150分で構成しています。適宜、休憩を入れながら受講して下さい。

## I 研修概要

研修名	産業・理科教育教員派遣研修							
担当グループ	つくば中央研修センター 研修プロデュース室							
研修目的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受講対象	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員							
開催期日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）				日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	26	人	参加率	26.0%
開催場所	国立大学法人宇都宮大学、共愛学園前橋国際大学 ほか							

## II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	23	2	1	0	0	0	26
割合 (%)	88.5	7.7	3.8	0.0%	0.0%	0.0%	
	25	96.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場を離れ、自分の研究したい内容について時間を費やすことができたことはとても貴重な時間となった。後期に現場に戻り、すぐに実践できたこともとてもよかった。</li> <li>・科学分野は日進月歩であり、高等学校の教科書内も変化している。それに伴い、理科教員も知識を更新し、新しい技術を身につける必要がある。今回、大学で最新の研究について学び、実験技術を身につけることができとても有意義だった。</li> <li>・学校現場にいた時とは違った視点で教育や学校教育について考えることができた。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響はあったが、その中で大学の先生方ができることをしてくださったので、大変有意義な研修となった。</li> </ul>
---

## III 研修内容・方法の見直し等

<p><b>前年度を踏まえ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入した。</li> <li>・本研修は各受講者により受入機関・研修期間が異なるため、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じ、各受入機関単位で個別に研修計画等を柔軟に変更し、研修を実施した。</li> </ul> <p><b>次年度に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策等が引き続き続く可能性が高いが、本研修は各受講者により受入機関・研修期間が異なるため、状況に応じて個別に実施の可否を判断し、柔軟に対応する。</li> <li>・実施経費については、引き続き全額派遣者負担を導入する。</li> </ul>
--

## IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり



令和2年度 産業・理科教育教員派遣研修 受講者一覧

No	都道府県等	派遣人数	派遣元	派遣先		
			所属	機関名	派遣時期	期間
1	山形県	1	山形県立天童高等学校	社会福祉法人 つるかめ	H30.10.1 ~ H31.3.31	6ヶ月
2	栃木県	9	鹿沼市立南押原中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6ヶ月
3			栃木市立都賀中学校	宇都宮大学	H30.4.1 ~ H30.9.30	6ヶ月
4			那須烏山市立烏山中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6ヶ月
5			宇都宮市立横川東小学校	宇都宮大学	H30.4.1 ~ H30.9.30	6ヶ月
6			真岡市立中村中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6ヶ月
7			那須塩原市立西那須野中学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6ヶ月
8			栃木県立栃木農業高等学校	東京農業大学	H30.4.1 ~ H30.9.30	6ヶ月
9			栃木県立鹿沼商工高等学校	宇都宮大学	H30.10.1 ~ H31.3.31	6ヶ月
10			栃木県立宇都宮商業高等学校	大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校宇都宮校	H30.10.1 ~ H31.3.31	6ヶ月
11	群馬県	1	群馬県立松井田高等学校	共愛学園前橋国際大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
12	長野県	1	長野県千曲市立屋代中学校	信州大学	H30.5.1 ~ H30.8.31	4ヶ月
13	愛知県	5	愛知県立旭丘高等学校	愛知教育大学	H30.8.31 ~ H31.2.28	7ヶ月
14			愛知県立小牧工業高等学校	学校法人 神野学園 中日本航空専門学校	H30.5.1 ~ H30.10.31	6ヶ月
15			愛知県立豊橋工業高等学校	アイシン精機株式会社 人事部 アイシン高等学園	H30.11.1 ~ H31.1.31	3ヶ月
16			愛知県立愛知商業高等学校	名古屋商科大学院ビジネススクール、名古屋商科大学経営学部都心型コース	H30.5.1 ~ H30.7.31	3ヶ月
17			愛知県立緑丘高等学校	名古屋情報メディア専門学校	H30.6.29 ~ H30.9.28	4ヶ月
18	京都府	2	福知山市立昭和小学校	大阪大学大学院	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
19			宇治市立広野中学校	大阪大学大学院	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
20	大阪府	1	大阪府立藤井寺工科高等学校	大阪工業大学知的財産専門職大学院	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
21	和歌山県	1	和歌山県立和歌山工業高等学校	国立大学法人和歌山大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
22	岡山県	1	岡山県立興陽高等学校	岡山大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
23	山口県	1	山口県立防府高等学校	山口大学	H30.10.1 ~ H30.12.31	3ヶ月
24	高知県	1	高知県立伊野商業高等学校	高知工科大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
25	福岡県	1	福岡県立博多青松高等学校	福岡大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
26	佐賀県	2	佐賀県立唐津南高等学校	学校法人永原学園 西九州大学佐賀調理製菓専門学校	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
27			唐津市立第一中学校	国立大学法人佐賀大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
28	熊本県	2	益城町立木山中学校	熊本大学	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月
29			熊本県立熊本工業高等学校	株式会社 三津野建設	H30.4.1 ~ H31.3.31	12ヶ月